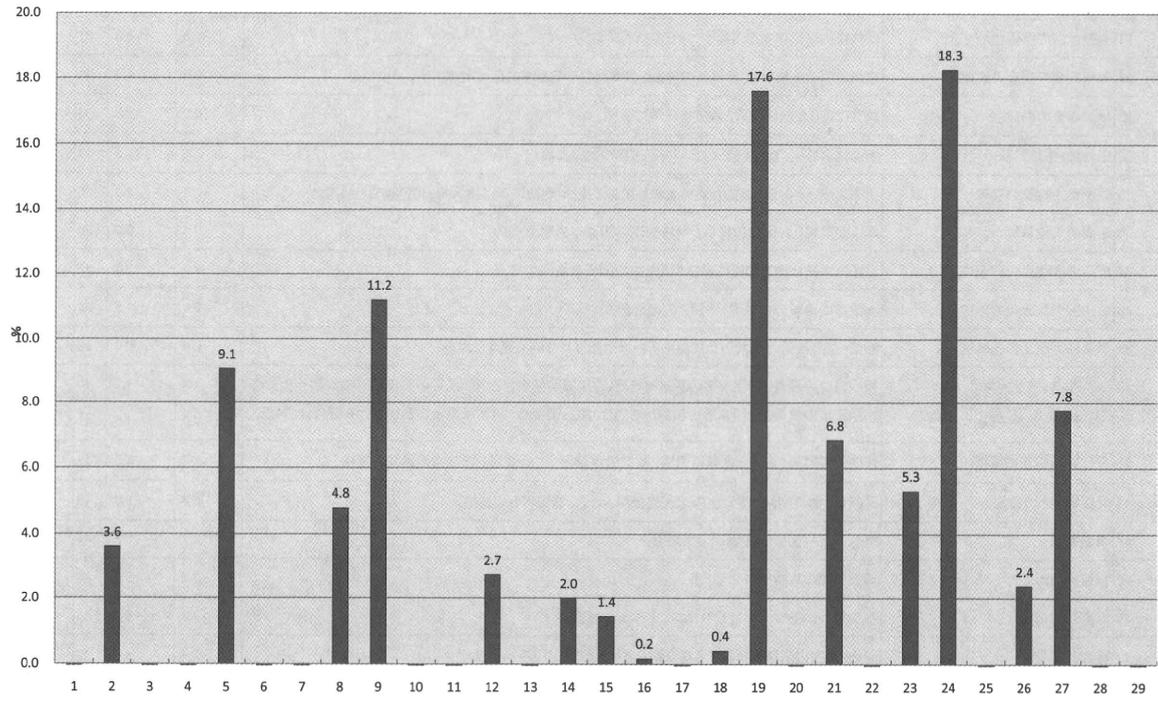
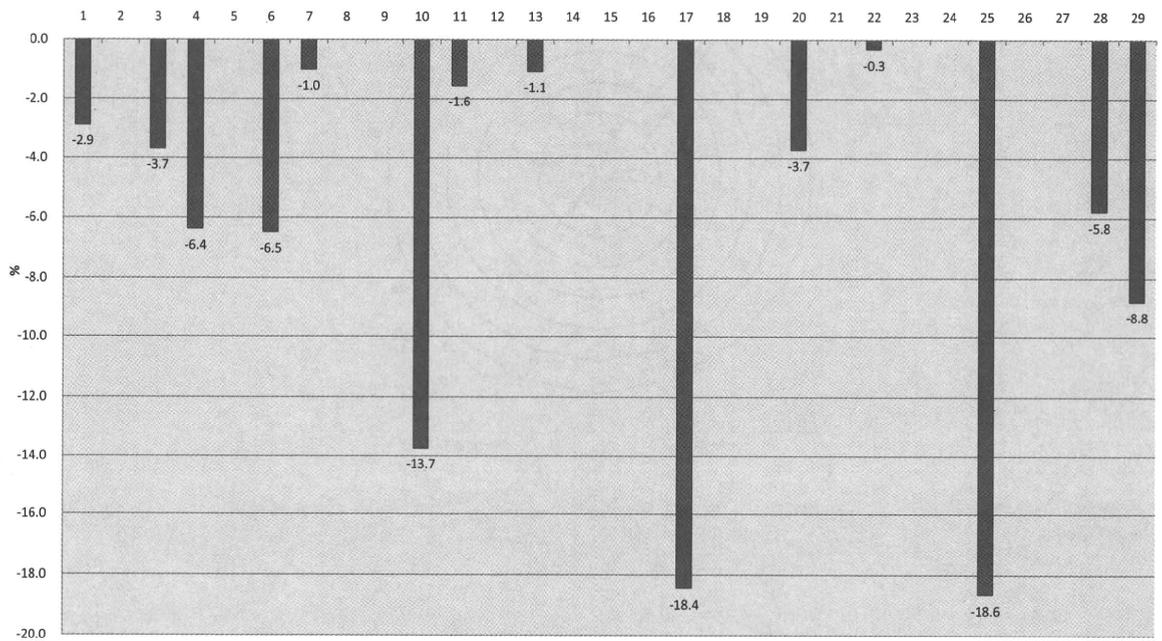


県型が優位な項目とポイント数



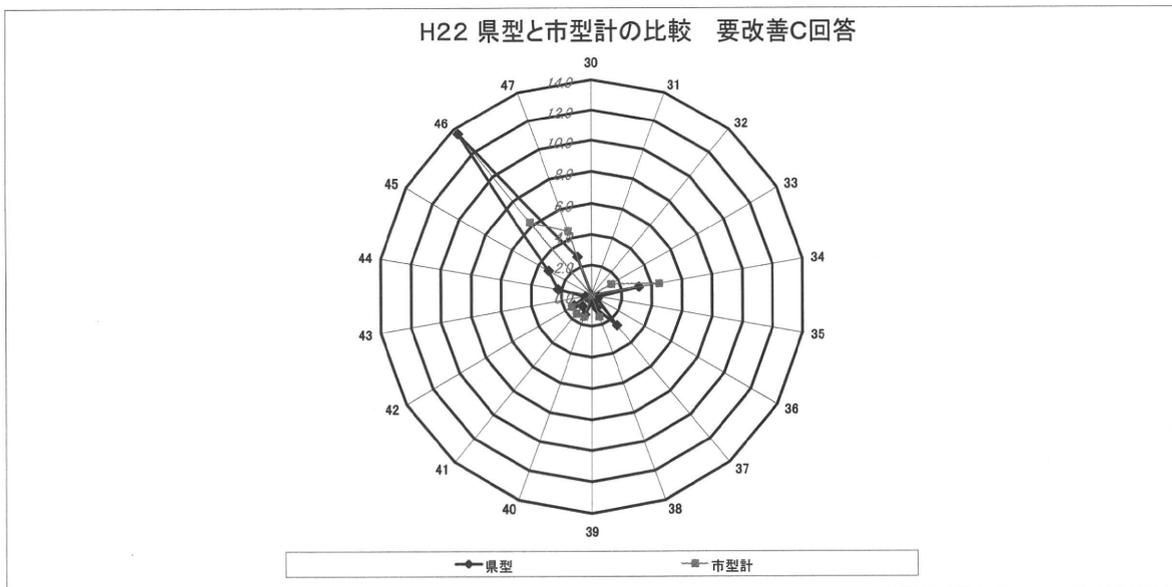
市型が優位な項目とポイント数



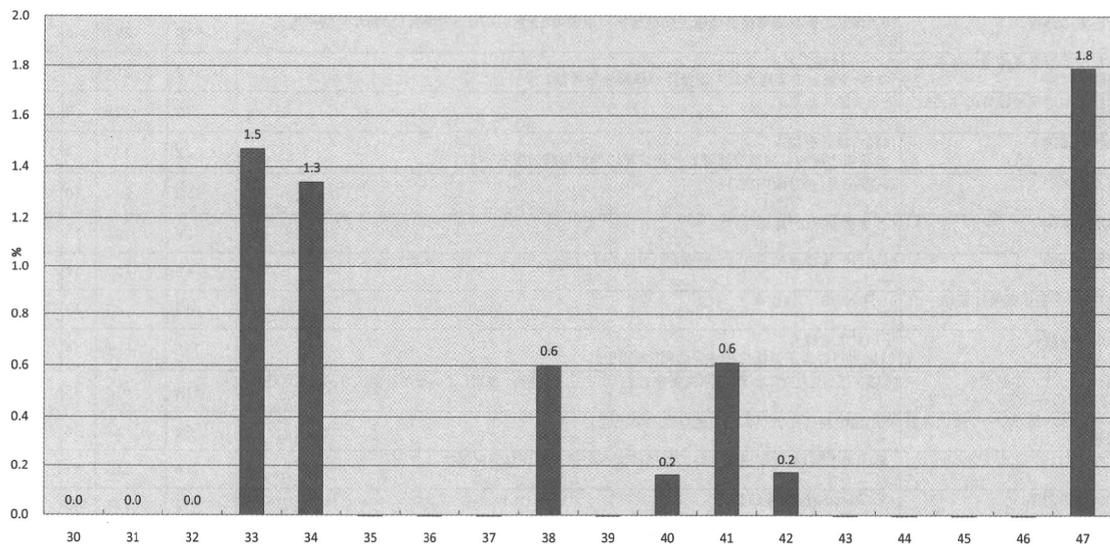
感染症 平成22年度 県型と市型計の比較(要改善C 回答)

(アンケート項目No.30~No.47)

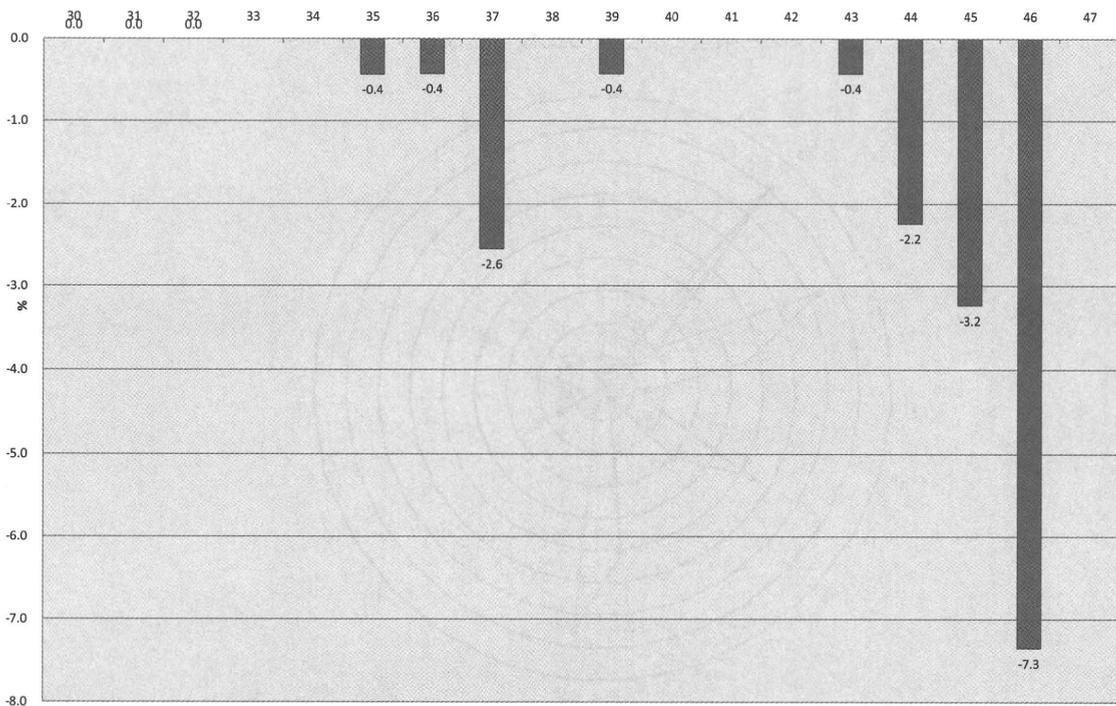
H22 アンケート 項目	大項目	具体的な評価指標	要改善C 回答			
			県型	市型計	市型-県 型	
30	初動体制の迅速性と的確性	情報探知の迅速性	0.0	0.0	30	0.0
31	初動体制の迅速性と的確性	探知後の初動体制を迅速かつ的確に対応	0.0	0.0	31	0.0
32	積極的疫学調査の的確性	症例定義を明確にし、接触者の範囲、健康状態の確認を的確に実施	0.0	0.0	32	0.0
33	検体検査の的確性	検査に適した検体採取と検査を円滑に実施	0.0	1.5	33	1.5
34	感染源・感染経路の究明	病原体の特定、感染経路の究明を迅速かつ的確に実施	3.1	4.5	34	1.3
35	病原微生物等の管理	病原体サーベイランスのための菌株等の取り扱い(地衛研への搬入等)の迅速性と的確性	0.4	0.0	35	-0.4
36	患者の人権尊重	本人が納得した医療の提供と積極的疫学調査への理解・協力	0.4	0.0	36	-0.4
37	感染拡大防止の的確性	感染拡大防止策を的確に実施するための関係者会議の実施	2.6	0.0	37	-2.6
38	感染拡大防止の的確性	施設等の地域の関係者・機関との連携をスムーズに実施	0.9	1.5	38	0.6
39	感染拡大防止の的確性	感染・発病被害の拡大防止に関する指導や措置について適切に実施	0.4	0.0	39	-0.4
40	リスクコミュニケーション	相談窓口の設置、説明会等の実施等を通じ、施設関係者、地域住民等の不安等への解消への対応	1.3	1.5	40	0.2
41	リスクコミュニケーション	相談窓口の設置、説明会等の実施等を通じ、施設関係者、地域住民及び関係者から感染症(対策)に関する理解	0.9	1.5	41	0.6
42	行政機関相互の連携	庁内関係部署、本庁と保健所の間、複数の保健所間、保健所と当該自治体間の連携	1.3	1.5	42	0.2
43	関係機関との連携	医師会、拠点病院、感染症指定医療機関、消防、警察等との連携	0.4	0.0	43	-0.4
44	情報還元	地域住民や医療関係者への情報還元	2.2	0.0	44	-2.2
45	報道機関対応	報道機関の取材への対応	3.2	0.0	45	-3.2
46	再発防止措置	事後評価に基づいた対策やマニュアル等の見直し	13.6	6.3	46	-7.3
47	再発防止措置	院内・施設内感染等における再発防止のための取り組みへの支援	2.7	4.5	47	1.8



県型が優位な項目とポイント数

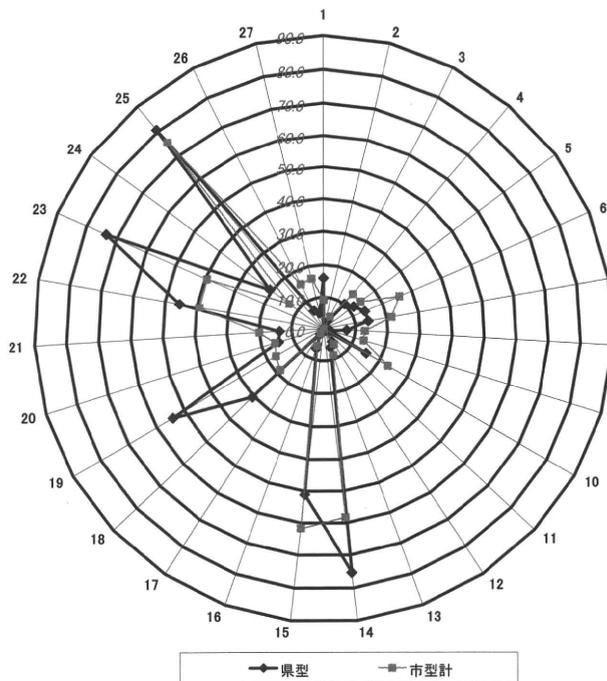


市型が優位な項目とポイント数

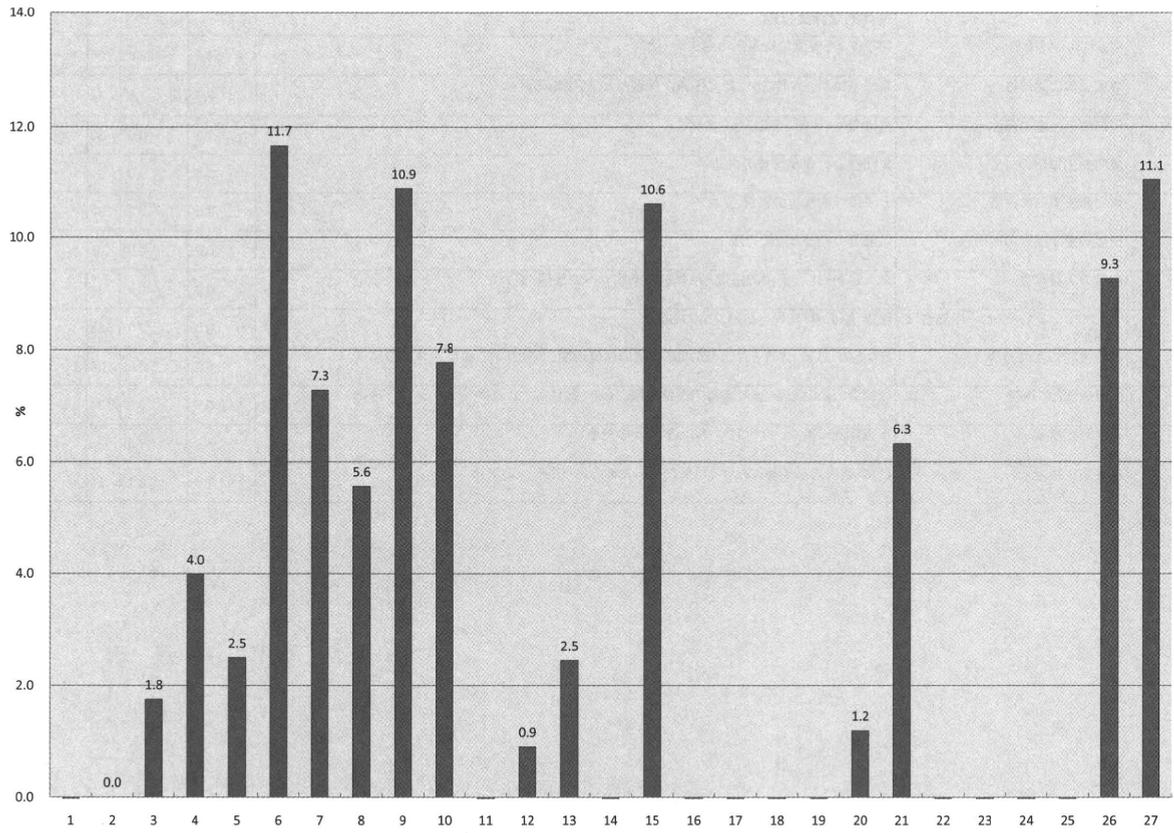


H22 アンケート項目	大項目	具体的な評価指標	要改善C 回答			
			県型	市型計	市型-県型	
1	地域課題の分析ができる	管轄内の結核罹患率の対前年比 (本年罹患率/前年罹患率-1)×100(%)	16.0	9.2	1	-6.7
2	医療機関からの情報の適切な把握	医療機関から発生届の提出が遅れている医療機関へ指導改善	0.0	0.0	2	0.0
3	発生届に基づく適切な対応	塗抹陽性患者への平均的な面接時間	2.5	4.3	3	1.8
4	菌情報の把握(評価前年の新登録患者の把握状況)	新登録肺結核患者における、塗抹・培養・同定・感受性の把握率	10.3	14.3	4	4.0
5	発見の遅れの正確な把握	発生動向調査の初診日は、届出医療機関ではなく、最初に訪れた医療機関の受診日を入力しているか	11.8	14.3	5	2.5
6	適正医療の確保	80歳未満の新登録喀痰塗抹陽性肺結核初回治療中Zを含む4剤処方割合(2005年全国平均63.3%)	14.0	25.7	6	11.7
7	服薬状況や治療成績等の体系的な管理	コホート情報入力率 (コホート検討の実施者数/新登録塗抹陽性患者数)	14.2	21.4	7	7.3
8	服薬状況や治療成績等の体系的な管理	治療失敗+脱落率	7.3	12.9	8	5.6
9	接触者の追跡	接触者検診受診率 (当該年の接触者検診受診者数/当該年の接触健診対象者)	2.2	13.0	9	10.9
10	服薬支援体制	(入院患者への)院内DOTS	15.3	23.1	10	7.8
11	服薬支援体制	(外来患者への)地域DOTS	0.9	0.0	11	-0.9
12	服薬支援体制	結核専門医療機関との協力体制(特にDOTSカンファレンス*1、コホート検討会*2)	4.8	5.7	12	0.9
13	予防接種(県型保健所は管轄内市町村の状況)	6ヶ月未満BCG接種率	6.3	8.7	13	2.5
14	BCGの技術評価	平均針痕数調査 (1歳半等の母子健診の機会を活用した調査)	75.3	58.2	14	-17.1
15	計画・マニュアルの整備状況(都道府県のみ回答)	危機を想定したマニュアル等(文書例含む)があり、必要時、改定しているか計画に含めても可能)	51.1	61.7	15	10.6
16	関係機関とのネットワーク連携体制の構築	多剤耐性結核患者が入院可能な病院の把握	6.6	5.7	16	-0.8
17	適切なマスコミ対応ができる	(集団発生等)危機事例発生時の報道機関への適時適切な情報提供	1.8	1.7	17	-0.1
18	外国人への対応	パンフレット・様式等の準備	30.4	18.6	18	-11.8
19	外国人への対応	コミュニケーション体制(通訳等の準備など)	54.2	17.1	19	-37.1
20	医療機関を対象とした普及啓発	適宜の情報提供及び普及啓発活動(講演会、適宜の情報提供)	14.5	15.7	20	1.2
21	高齢者施設を対象とした普及啓発活動	高齢者入所・通所施設への普及啓発	13.7	20.0	21	6.3
22	教育機関(学校)等を対象とした普及啓発活動	小・中・高校、大学、専門学校等への普及啓発	45.5	39.1	22	-6.3
23	その他のハイリスク者(ハイリスクの設定が必要な場合)	住所不定者・簡易宿泊所等への啓発と指導	73.5	39.3	23	-34.1
24	結核危機管理に関する研修・実地訓練の実施	専門職等を対象とした結核研修(医師・保健師・技師等) (医師・保健師・技師等)	20.7	13.2	24	-7.4
25	結核危機管理に関する研修・実地訓練の実施	集団感染等を想定した訓練、シミュレーション研修	80.6	75.4	25	-5.3
26	医療監視等の機会を利用した指導	医師の健診診断未受診医療職(医師・看護師等)の把握・指導	6.4	15.7	26	9.3
27	医療監視等の機会を利用した指導	院内感染対策に結核対策が位置付けられていることの確認と指導	5.1	16.2	27	11.1

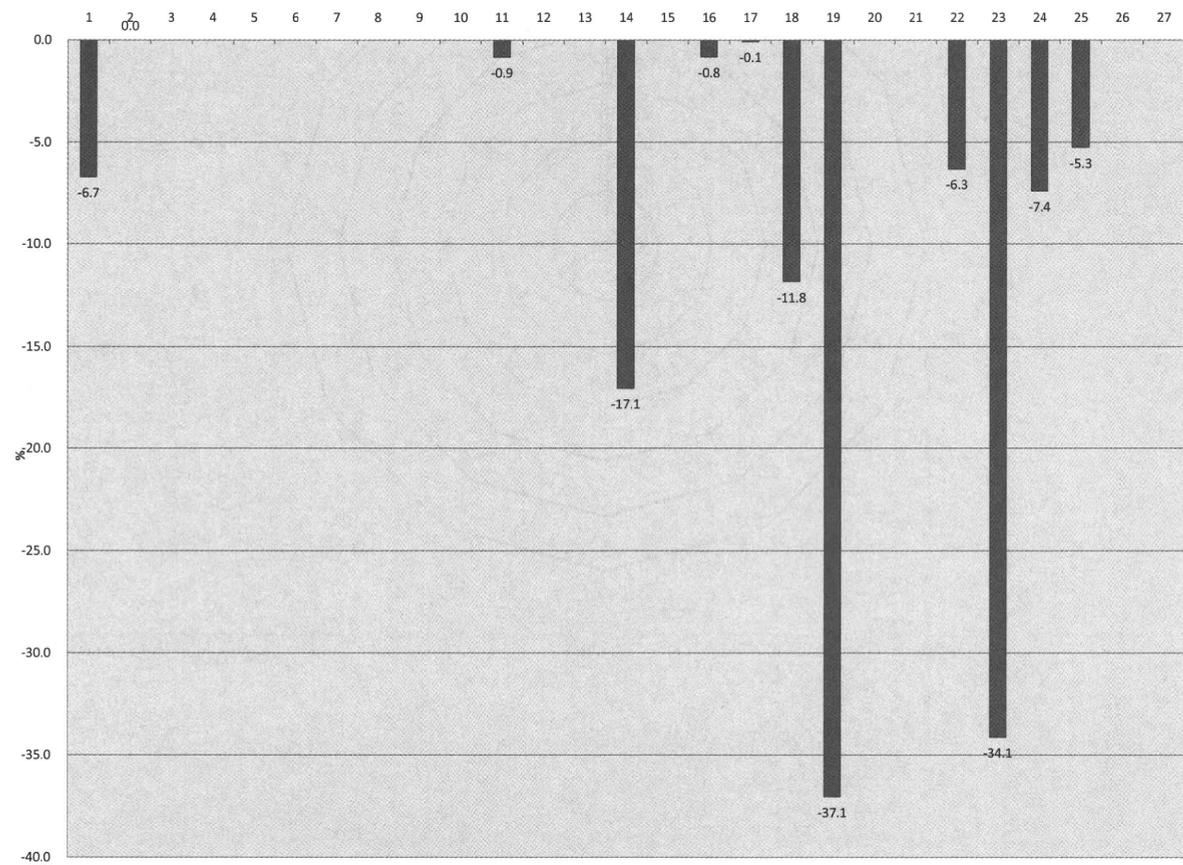
H22 県型と市型計の比較 要改善C 回答



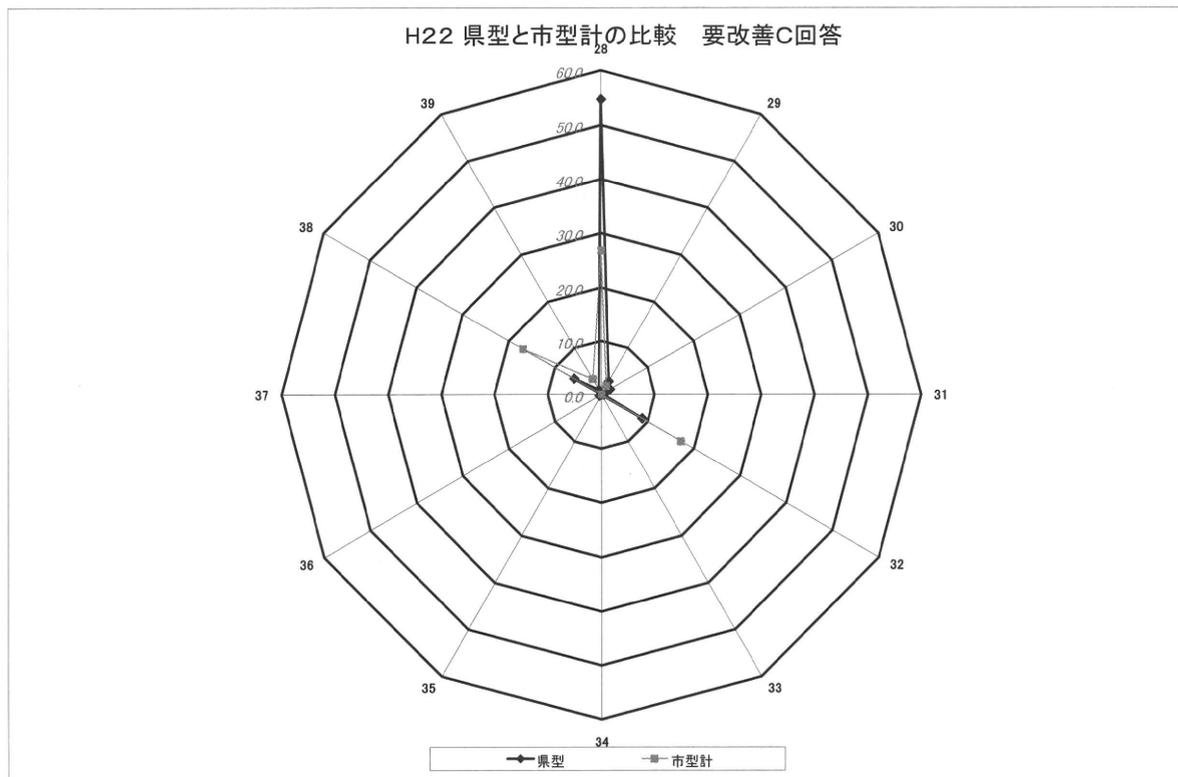
県型が優位な項目とポイント数



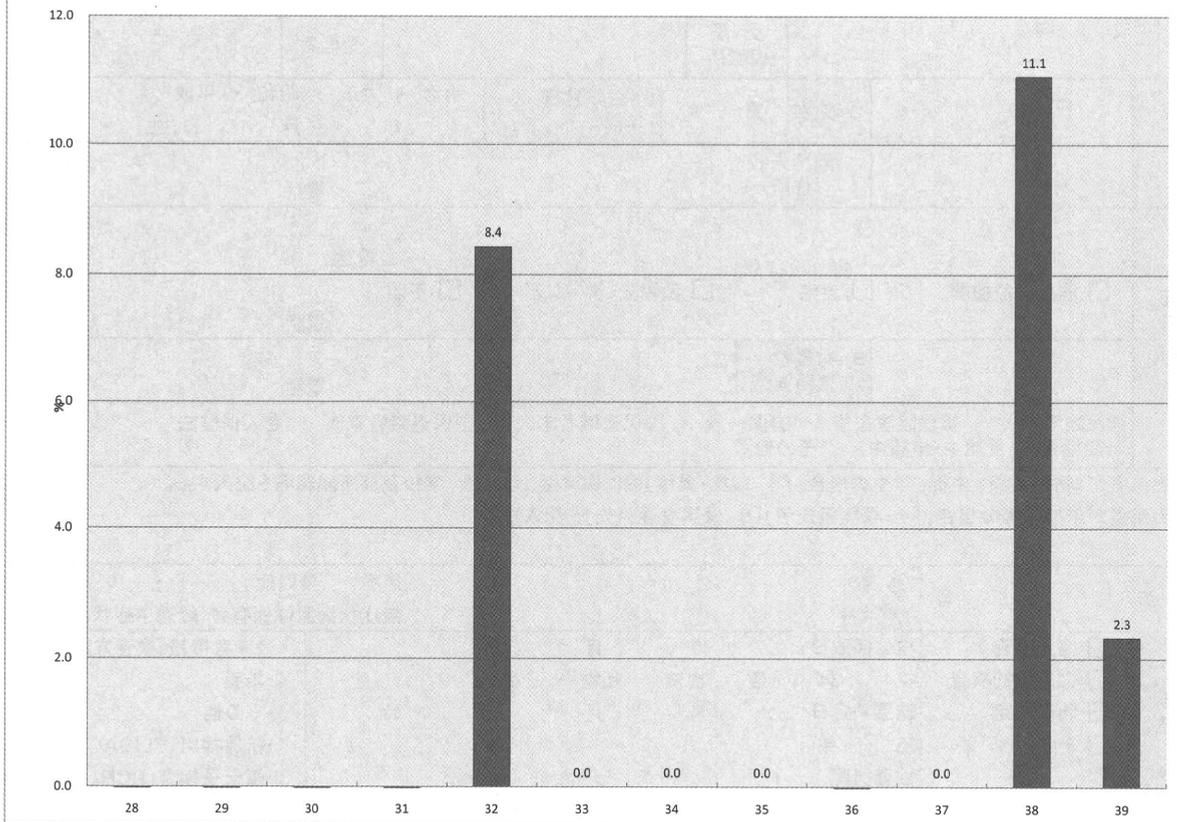
市型が優位な項目とポイント数



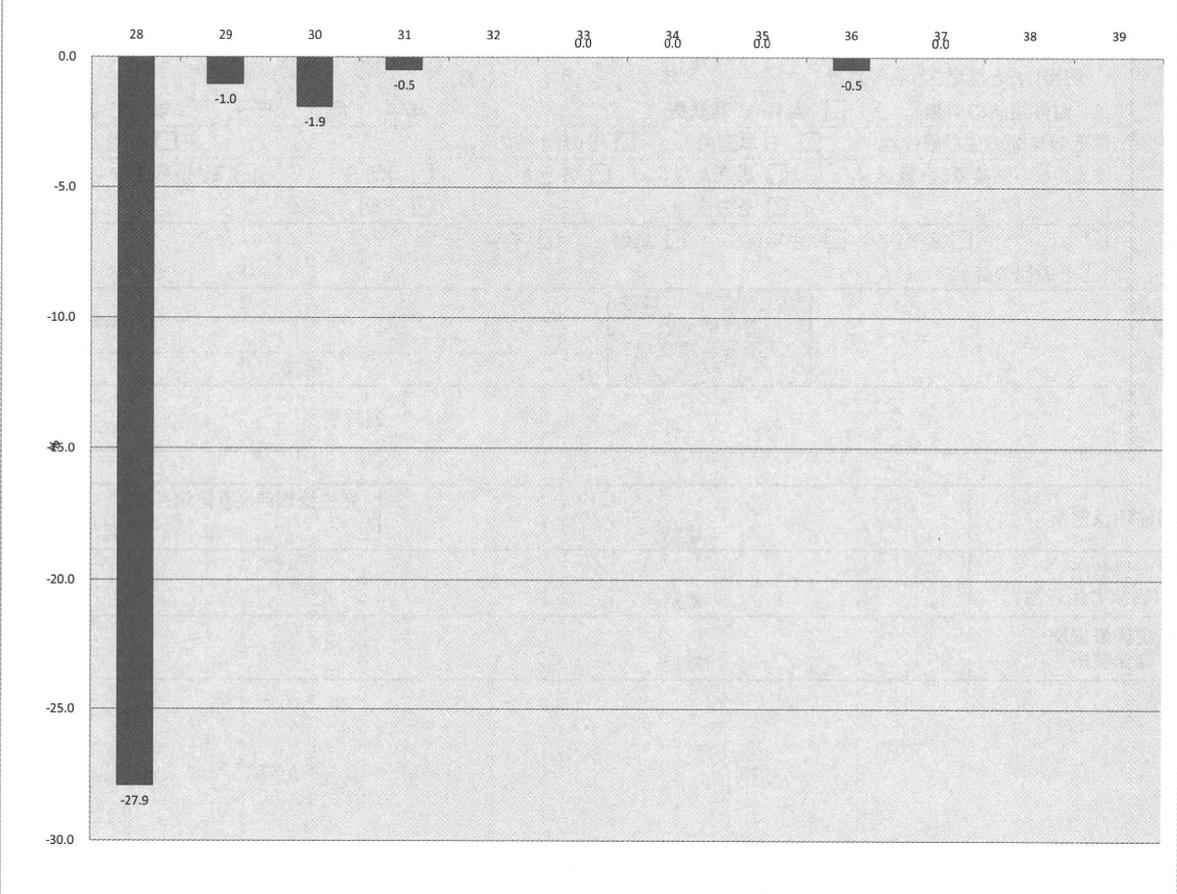
H22 アンケート項目	大項目	具体的な評価指標	要改善C 回答		
			県型	市型計	市型-県型
28	結核による健康危機事例	結核による健康危機事例の発生の有無	54.7	26.8	28 -27.9
29	情報探知の迅速性	集団感染か、多剤性か、対応困難か保健所として判断の遅れ	2.8	1.8	29 -1.0
30	探知後の初動の迅速性	危機発生(危機と判断)からの対応	1.9	0.0	30 -1.9
31	集団発生事例の対応	集団感染の現場調査の方法	0.5	0.0	31 -0.5
32	集団発生事例の対応	分子疫学的解析の実施	8.8	17.2	32 8.4
33	積極的疫学調査の的確性	接触者の把握と健診方法	0.0	0.0	33 0.0
34	患者の人権尊重	本人が納得した医療の提供と積極的疫学調査への理解・協力	0.0	0.0	34 0.0
35	リスクコミュニケーション(相談窓口の開設)	家族・関係者・住民へのパニック対応	0.0	0.0	35 0.0
36	行政機関相互の連携	庁内関係部署、本庁と保健所の間、複数の保健所間、保健所と当該自治体間の連携	0.5	0.0	36 -0.5
37	関係機関との連携	医師会、拠点病院、感染症指定医療機関、消防、警察等との連携	0.0	0.0	37 0.0
38	再発防止措置	事後評価に基づいた対策やマニュアル等の見直し	5.9	17.0	38 11.1
39	再発防止措置	院内・施設内感染等における再発防止のための取り組みへの支援	1.0	3.3	39 2.3



県型が優位な項目とポイント数



市型が優位な項目とポイント数



感染症患者票(一類感染症、二類感染症、三類感染症)

感染症発生届出受理

届出受理日	平成 年 月 日 () 時 分	受理保健所	受理者
1 氏名	2 性別 男・女	3 生年月日 (年齢)	明治・大正・昭和・平成 年 月 日生 (歳)
4 職業業種	勤務先名 (住所)	電話 ()	
5 住所	電話 ()		
6 当該者所在地	<input type="checkbox"/> 届出医療機関 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先・学校など <input type="checkbox"/> 不明	電話 ()	
7 保護者氏名	8 保護者連絡先	電話 ()	
保険種類	被保険者本人・被保険者家族・国保一般・国保退職者本人・国保退職者家族・老人保健法・生活保護(受給中・申請中)・その他		

注1) 届出患者が幼児、児童、生徒、学生の場合、「4 職業・業種」欄に保育園、幼稚園、学校及び所属組名も記入する。

注2) 届出患者が未成年等の場合、「7 保護者氏名」「8 保護者連絡先」を記入する。

番号	第 号	9 病名	患者・疑似症 無症状病原体保有者(経過中症状がない)
10 診断方法	<input type="checkbox"/> 病原検査 <input type="checkbox"/> 血清学的検査 <input type="checkbox"/> 臨床決定 <input type="checkbox"/> その他	検体採取日: 年 月 日 検体: 便・血液・吐物・その他 () 結果判定日: 年 月 日 時 結果: () 検査機関: ()	※参考情報《検査方法》 ・培養 ・その他 ・抗原検出(ELISAなど) ・遺伝子検査(PCRなど)
11 症状	<input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 腹痛 <input type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> その他 ()		
治療	抗菌薬の投与 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 薬品名 () 投与期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)		
12 発病日	年 月 日 時	13 初診日	年 月 日 時
14 診断日	年 月 日 時	16 死亡日	年 月 日 時
17 推定される感染原因等	15 推定される感染地域 <input type="checkbox"/> 日本国内 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 不明 感染したと推定される年月日 年 月 日 (海外渡航の有無) <input type="checkbox"/> 海外 渡航先 () 年 月 日 ~ 年 月 日		
	最近数年間の主な居住地 <input type="checkbox"/> 日本国内 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 不明		
	推定される感染原因・経路 <input type="checkbox"/> 患者から <input type="checkbox"/> 食品から <input type="checkbox"/> 水から <input type="checkbox"/> 動物・昆虫から <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 不明		
届出時の症状	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 軽症 <input type="checkbox"/> 中等症 <input type="checkbox"/> 重傷 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> その他の症状 ()		
診断医師氏名	医療機関名 医療機関所在地 電話 ()		
18 その他			通報者

関係保健所地	居住地保健所	電話	発生受理時 通報年月日 年 月 日
	勧告保健所 (当該者所在地)	電話	
	指定医療機関 管轄保健所	電話	

行政対応記録

当該者へ届出内容通知	平成 年 月 日 時 分	番号	通知者	保健所
------------	--------------	----	-----	-----

就業制限	業務	※勤務先への連絡 <input type="checkbox"/> 本人から <input type="checkbox"/> その他		
	通知	平成 年 月 日 時 分	番号	通知者 保健所

消毒	消毒命令	平成 年 月 日 時 分	番号	消毒指示	年 月 日 時 分
----	------	--------------	----	------	-----------

入院勧告等	<input type="checkbox"/> 勧告	平成 年 月 日 時 分	番号	場所	<input type="checkbox"/> 患者宅 <input type="checkbox"/> その他
	<input type="checkbox"/> 措置	平成 年 月 日 時 分		実施者	保健所
	移送依頼	平成 年 月 日 時 分	移送担当受理者	連絡者	
	入院日時	平成 年 月 日 時 分	入院先医療機関		

診査協議会	日時	平成 年 月 日 時 分	開催保健所	保健所	
	委員名				
	結果	<input type="checkbox"/> 法第20条に基づく入院勧告又は措置を決定 <input type="checkbox"/> その他			
延長勧告	<input type="checkbox"/> 勧告	平成 年 月 日 時 分	番号	場所	
	<input type="checkbox"/> 措置	平成 年 月 日 時 分		実施者	保健所
	入院延長期間	平成 年 月 日 時 分まで	入院先医療機関		

第2回目以降の診査協議会(抜粋)						
	開催日時	開催場所	結果	入院延長期間	入院延長勧告・措置実施	番号
2回	年 月 日		<input type="checkbox"/> 入院延長を決定 <input type="checkbox"/> その他	年 月 日 時 分まで	年 月 日 時 分	
3回	年 月 日		<input type="checkbox"/> 入院延長を決定 <input type="checkbox"/> その他	年 月 日 時 分まで	年 月 日 時 分	

退院(勧告・措置解除)	<input type="checkbox"/> 退院 <input type="checkbox"/> 転床	平成 年 月 日 時 分	退院理由	<input type="checkbox"/> 病原体を保有しない <input type="checkbox"/> 症状の消失
-------------	--	--------------	------	--

各種請求確認	請求内容	<input type="checkbox"/> 検査請求(法第18条) <input type="checkbox"/> 退院請求(法第22条)	
	請求日	平成 年 月 日 時 分	受理者 保健所
	確認結果	結果判定日(検体採取日) 年 月 日	結果 検査結果の確認先
	結果連絡	平成 年 月 日 時 分	連絡者 保健所

その他の行政措置及び備考	

環境調査 (下記のみ 環境衛生監視員による調査票あり)

住居形態	<input type="checkbox"/> 戸建て <input type="checkbox"/> 共同住宅(マンション、団地、アパートなど) <input type="checkbox"/> その他(下宿、寮)		
便所	<input type="checkbox"/> 患者専用 <input type="checkbox"/> 家族と共用 <input type="checkbox"/> 他の世帯と共用 <input type="checkbox"/> 水洗式 <input type="checkbox"/> くみ取り式 <input type="checkbox"/> シャワー洗浄設備 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
トイレ内 手洗設備	手洗い設備	<input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> ロータンク付き <input type="checkbox"/> 水道蛇口 <input type="checkbox"/> 汲み置き式) <input type="checkbox"/> 無	
	手拭タオル	<input type="checkbox"/> ペーパータオル、個人専用タオル <input type="checkbox"/> 温風ドライヤー <input type="checkbox"/> 共用タオル <input type="checkbox"/> 無	
下水道	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 浄化槽 (放流先: <input type="checkbox"/> 道路側溝 <input type="checkbox"/> 吸い込み) <input type="checkbox"/> 無		
飲料水	<input type="checkbox"/> 上水道	貯水槽 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	塩素消毒設備 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	<input type="checkbox"/> 井戸	<input type="checkbox"/> 専用 <input type="checkbox"/> 共同	◆飲料水の残留塩素濃度 _____ mg/l
	<input type="checkbox"/> その他		水質検査 _____ 年 月 日 (<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適)
炊事場	<input type="checkbox"/> 患者専用 <input type="checkbox"/> 家族と共用 <input type="checkbox"/> 他の世帯と共用(下宿、寮、アパートなど) <input type="checkbox"/> その他 (_____)		
風呂	<input type="checkbox"/> 患者専用 <input type="checkbox"/> 家族と共用 <input type="checkbox"/> 他の世帯と共用 <input type="checkbox"/> 入替式(一般型) <input type="checkbox"/> 循環式 <input type="checkbox"/> シャワーのみ <input type="checkbox"/> その他		
動物飼育	<input type="checkbox"/> 屋内有 (サル・犬・猫・カメ・その他) <input type="checkbox"/> 屋外有 (サル・犬・猫・その他) <input type="checkbox"/> 無		
備考			

調査を実施する対象と結果

- 家族 同居者 勤務先 保育園・幼稚園・学校
 その他 (_____)

関係	氏名	年齢	性別	勤務先・学校名	検病調査		健康診断のための検査			対応
					発病日	症状	採取日	検体	結果	
					/		/			
					/		/			
					/		/			
					/		/			
					/		/			
					/		/			

調査の結果、今後の方針 決定日 平成 年 月 日

--

患者の治療経過及び検査結果

主治 医名		医療 機関名		医療機関 所在地		電話	
治療	抗菌薬の 投与 <input type="checkbox"/> 有 → <input type="checkbox"/> 無	服薬期間	平成 年 月 日 ~ 年 月 日	薬剤名			
治療 形態	<input type="checkbox"/> 通院 (年 月 日 ~ 年 月 日) <input type="checkbox"/> 入院 (年 月 日 ~ 年 月 日)						
検査 結果	結果把握日	/	/	/	最終除菌確認	/	備考
	採取日	/	/	/			
	検査機関						
	決定日	/	/	/			
	結果						
相談 指導							

医療安全(院内感染対策)ラウンドにおけるチェックポイント

病院立入検査 福島県東南保健所

1. 医療安全ラウンドにおけるキーポイント

- 指針・マニュアル等の周知状況、個々の従業者の安全に対する意識の確認を行う。
- マニュアル等の保管状況、コンプライアンスの確認を行う。
- インシデント(ヒヤリ・ハット)事例など、報告しやすい環境がつけられているかどうか確認を行う。
- 療養環境の整備(転倒・転落対策)についての確認を行う。
- 医療機器の適正使用の確認を行う。
- 医薬品の使用・保管状況の確認を行う。
- 患者からの相談に適切に応じる体制(「患者相談窓口」等)の確認を行う。
- インフォームドコンセント、患者様向けの医療安全情報の提供(患者参加型医療安全の取組)状況確認を行う。

2. ラウンドにおける留意点

- リスクを過大に考慮するあまり、エビデンスの乏しい対策を指導しない。
- 指導事項は、優先順位、実現性や費用対効果、その他の業務への影響を考慮する。
- 現場の要望を拾い上げ、管理者に伝達する改善活動支援も重要な役割である。
- 地域における感染対策情報の共有が期待される。

スタッフステーション		チェック
手洗い設備・水まわり		
1	液体石鹸とペーパータオルは設置されていますか？	
調剤台・薬剤管理		
2	薬液調製台には速乾性アルコール手指消毒薬を設置し励行していますか？	
3	アルコール綿は清潔に管理していますか？ (多包製剤の管理、万能壺への薬剤のつぎ足し使用はしないなど)	
4	注射針およびシリンジは、ディスポーザブル使用されていますか？ (採血に用いる場合、ガラス製シリンジ等は好ましくありません)	
5	安全機構付き注射針は採用されていますか？	
6	シャープスコンテナを採用するとともに、適切に廃棄していますか？ (患者に使用した器材はリキャップしない。薬液/状況によってはリキャップも可)	
7	共用薬剤は可能な限りないようにしていますか？ (ネブライザー薬液、ヘパリン生食、その他静注用薬剤など)	
8	調製・希釈した薬液は24時間以内の使い切りと冷蔵保管されていますか？	
9	冷蔵庫に期限切れの医薬剤、医薬品以外の食材等が混在されていないか	
消毒・滅菌		
9	出来るだけ、消毒の質保証が困難な現場での消毒は避けていますか？	
10	アルコールなどによる噴霧消毒は行わないようにしていますか？	
11	消毒の濃度、時間、浸漬状態などは遵守されていますか？	
12	確実な消毒(MRSA やHBV 検出者のみ消毒は不可)がされていますか？	
13	共用する医療器具(ネブライザーなど)は患者毎に消毒または滅菌していますか？	
14	院内で滅菌する際には化学的・生物学的滅菌保証を行なっていますか？	
15	滅菌した医療機材は、使用期限が守られていますか？	
リネン室		チェック
16	清潔リネンは汚染しないよう保管されているか	
17	汚染リネンはただちにポチ袋に入れて密封し、ランドリーバッグ搬送しているか	
18	オムツ交換の際のカートは適切な取り扱いをされているか	

病棟		チェック
汚物処理室		
19	流水手洗い設備はありますか？ (鍵などの構造設備がある場合、アクセスが悪くなりますのでお奨めしません)	
20	液体石鹸とペーパータオル、速乾性アルコール手指消毒薬は設置していますか？	
21	手袋・エプロンもしくはガウンが設置され、患者毎に交換されていますか？ (オムツカートなどがあれば患者毎の交換についてより注意を促してください)	
22	陰部洗浄用ボトルなどは、患者毎に共有していませんか？	
病室		
23	手指衛生は基本的に速乾性アルコール手指消毒薬で行われていますか？	
24	採血時・検体取り扱い時には手袋を着用していますか？	
25	携帯用シャープスコンテナは採用されていますか？	
26	共用物品(剃刀、石鹸、シャンプー、タオルなど)は設置していませんか？	
27	気管吸引・口腔吸引など、体液に曝露されるような手技の場合は、ディスポーザブルの个人防护具を着用し、手指衛生を行なっていますか？	
28	嘔吐下痢症の吐物、抗菌薬関連下痢症(クロストリディウム・ディフィシル関連下痢症)患者周囲の場合は、次亜塩素酸を用いて環境清掃が行っていますか？	
29	リネン類のホルマリン薫蒸など、梅毒・HBV キャリアーの隔離など過剰な対応をしていませんか？	
30	空調設備などは、定期的にメンテナンスされていますか？	
31	配膳後の給食は適切に喫食されていますか？冷蔵庫の温度管理は適切ですか？ (MRSA やHBV 陽性患者などを区別する必要はありません)	

内視鏡検査室		チェック
32	専従の内視鏡管理者はいますか？	
33	消毒薬濃度チェックの記録はありますか？	
34	検査時・消毒時には手袋・ガウンを装着していますか？	
35	1回毎の消毒、漏水検知、ブラッシング、清潔な保管が行われていますか？	
36	内視鏡検査室は十分に換気が行われていますか？	
スコープの洗浄消毒		
37	症例ごとに高水準消毒薬を使用し消毒しているか(高水準消毒薬はグルタルアルデヒド[GA]、オルトフタルアルデヒド[OPA]、過酢酸[PAA]の3剤である)	
38	薬液の浸漬時間が守られているか(2%グルタルアルアルデヒド10分+アルコール、0.55%オルトフタルアルデヒド5分、0.3%過酢酸5分)	
39	薬液の有効濃度と使用期限を遵守しているか(消毒薬専用試験紙を使用して毎日確認しているか)	
40	用手法	
41	スコープ内部のすべての管路に消毒薬が注入されているか	
42	消毒後は流水下で消毒液の残留がないよう十分すすいでいるか(すすぎの時間は薬剤メーカーに確認すること)	
43	チャンネル洗浄装置を使用してチャンネル内を確実に200ml以上の水ですすいでいるか	
44	自動洗浄消毒装置	
45	スコープ内部のすべての管路に消毒薬が注入されているか	
46	自動洗浄消毒装置のフィルタ類の交換は定期的に行っているか	
47	自動洗浄消毒装置がプログラム通りに作動しているかを確認しているか	
48	強酸性電解水を使用した自動洗浄消毒装置を使用している場合は、取り扱い説明書に従って管理されているか	
スコープの保管		
49	スコープはアルコールフラッシュを行い乾燥させてから保管しているか	
50	スコープの保管の際、吸引栓や鉗子栓などをはずした状態で保管しているか	
51	スコープは清潔な保管庫にハンガーに吊るした状態で保管されているか	

外来		チェック
咳エチケット		
52	啓発ポスターを掲示し患者用速乾性アルコール手指消毒薬を設置していますか？	
53	発熱性呼吸器疾患のスクリーニングをしていますか？ (動線の分離は、構造設備・運用の可能な範囲で可)	
54	発熱性呼吸器疾患の診察において、医療従事者はマスクを着用していますか？	
手洗い設備・水まわり		
55	液体石鹸とペーパータオルは設置されていますか？ (処置室では必須。診察室では病棟よりはリスクは低いので必須ではありません)	
調剤台・薬剤管理		
56	薬液調製台には速乾性アルコール手指消毒薬を設置し励行していますか？	
57	アルコール綿は清潔に管理していますか？ (多包装剤の管理、万能壺への薬剤のつぎ足し使用はしないなど)	
58	安全機構付き注射針は採用されていますか？	
59	シャープスコンテナを採用するとともに、適切に廃棄していますか？ (患者に使用した器材はリキャップしない。薬液/状況によってはリキャップも可)	
60	共用薬剤は可能な限りなくないようにしていますか？ (ネブライザー薬液、ヘパリン生食、その他静注用薬剤など)	
61	調製・希釈した薬液は24時間以内の使い切りと冷蔵保管されていますか？	
62	散瞳薬など、共用する検査薬は清潔に管理されていますか？	
消毒・滅菌		
63	可能な限り、消毒の質保証が困難な現場での消毒は避けていますか？	
64	手洗いはベソーンを使用せず、流水もしくはアルコールで行っていますか？	
65	浸漬消毒をおこなっている際には、きちんと浸漬されていますか？	
66	確実な消毒(MRSA やHBV 検出者のみ消毒は不可)がされていますか？	
67	ネブライザー管の消毒もしくは滅菌は患者毎に消毒または滅菌していますか？	
救急室		
68	救急カート	
69	除細動	

透析室		チェック
70	個人防護具は適切に着用しているか	
71	患者との接触、透析装置などの環境表面への接触後に手指衛生が徹底されているか	
72	透析開始は2名体制か	
73	シャント穿刺の消毒薬剤、方法は適切か	
74	シャント穿刺に使用した針は適切に処理されているか	
75	透析装置は適切に消毒・管理されているか	
76	使用済み器材は適切に処理されているか	
77	清潔エリアと不潔エリアの区別はきちんと守られているか	
78	HBs抗原陽性患者のベッド周囲に、HBs抗体陽性患者を配置できているか	
79	透析患者とスタッフへのHBVワクチンの接種がなされているか	

中央材料室		チェック
80	感染、非感染で汚染器材を分けて洗浄を行っていないか	
81	作業者は必ず個人防護具の装置を行っているか	
82	洗浄後の器材をすべて目視にて確認しているか	
83	インジケータを用いた滅菌効果確認を行っているか	
84	滅菌物が適切に保管されているか	

感染症廃棄物適正処理		チェック
85	バイオハザードマークを付け院内の規程に従って適正に分別できているか	
86	廃棄容器の設置場所は適切か	
87	鋭利器材廃棄容器にリキャップした針が入っていないか	
88	廃棄容器の周囲が散らかっていたり、廃棄物が容器から飛び出していないか	
89	廃棄容器・ゴミ袋は、体につけないよう安全に廃棄しているか	

看護計画及び看護記録		チェック
87	感染症が発生した場合の看護計画立案・実施・評価がなされているか	
88	感染症が発生した場合の看護記録が適切になされているか	

微生物が検出された場合の対応		チェック
89	院内のフローチャートの有無	
90	患者が発生した場合の院内感染対策までの流れがどのようになっているか	
91	平常時のICTの活動状況	

今月の話題…《 新型インフルエンザ 》 前編

私は、新聞・テレビ・雑誌で話題になっている新型インフルエンザでございます。先日も、ICT院内勉強会で取り上げていただき、人気の高さを実感いたしました。

私に関しての対処方法が、マニュアルとしてありますが、実際に経験していないので皆さんの頭の中は、混乱状態の方も多いと思います。恐怖の大王扱いをされている私ですが、ただ私は、変異をして生き残りをかけているだけなのです。だから、皆さんも生き抜いてください。そのためにちょっとした感染防止のコツなどを、2ヶ月連続で紹介します。

私が好む年齢別では、小児や若年者に患者・重症例・死亡例が多いのが特徴です。飛沫感染が主ですが、空気・経口・糞口感染にも注意です。『備えあれば憂いなし』マスク着用、うがい、手洗いはしっかり！ 咳エチケット（くしゃみ）は、最重要です。

現在のインフルエンザ検査キットでは、新型を単独で拾い上げることはできません。ただ、症状を見ると、下痢（70%に見られる、血性の場合もある）や出血傾向があることが多く、これらの症状があった場合、要注意です。通常のインフルエンザの概念を超える全身感染と肝に銘じておいて下さい。また、ウイルスの排泄期間は、潜伏期から発症後2週間と長いので、患者さんの排泄物（直接触らない）、鼻をかんだ後のティッシュは、密封処理をすることが重要です。次号では、正しいマスク（N95）の装着法や家庭での準備・予防を紹介いたします。

ちょっと休憩

先月、ICTの勉強会がありました。インフルエンザとノロウイルスについての講演でしたが、皆さんの関心の高さが参加人数の多さで示されました。話の中で、抗インフルエンザ抗体が付いているマスクの情報提供がありました。もちろんICTの一員として、調べました！
高機能防護系抗体マスク『抗体 f f フォルテシモ』20枚入り/クロシード。種類は、N95マスクとサージカルマスクの2タイプ。（メディカルネットさんで取り扱いしています）
このシーズンになると、インフルエンザ関連のグッズが出回ります。アルコールジェル・ウイルス撃退空気清浄機etc まずは、質の良い食事と睡眠で抵抗力をつけ、手洗い・うがいをしっかりとしましょう。

my

ICT委員会報告

・平成20年度 第7回ICT委員会が、12月18日（木）に開かれました。

・サクシオンチューブとスネークチューブの交換時期を統一します。厳守してください。

サクシオンチューブ…毎日交換してください。

スネークチューブ……毎週交換、ただし汚染があるときはその都度交換します。

洗浄ボトル……毎日交換し、ボトルの再利用はせず廃棄してください。

・次回のICT委員会は、1月22日（木）です。

・質問や要望がございましたら、お近くのICT委員に声をかけてください。

「県南地域感染症情報」に関する御意見、御質問等につきましてはFAX及びメールにて返信くださるようお願いいたします。

県南保健所生活衛生部医療薬事課 FAX0248-23-1252

メールアドレス kansen_kennan@pref.fukushima.jp

★福島県感染症動向調査週報県南地域情報★

(全県の情報及び週報は、「福島県感染症情報」を検索してください。)

(22週5月31日～6月 6日)	手足口病の流行、感染性胃腸炎、水痘及び流行性耳下腺炎の小流行が見られます。
(23週6月 7日～6月13日)	感染性胃腸炎と流行性耳下腺炎の流行、水痘及び手足口病の小流行が見られます。
(24週6月14日～6月20日)	流行性耳下腺炎の流行、感染性胃腸炎、水痘及び手足口病の小流行が見られます。
(25週6月21日～6月27日)	感染性胃腸炎、水痘及び手足口病の小流行が見られます。



○感染性胃腸炎は、

- ・ロタウイルスA・B・C群、ノロウイルス、サポウイルス、腸管アデノウイルスなどで発症する胃腸炎です。
- ・感染経路は、経口感染、飛沫感染も考えられます。
- ・感染拡大の防止は、手洗いの励行、汚染された衣類などの次亜塩素酸による消毒です。

長引く咳に注意！！

県南保健所管内の平成22年の5月末の結核届出件数は、8件です。

60歳未満が2件、60歳以上が6件です。

高齢者の発症が高い状況です。

2週間以上、咳が続くようなら医療機関を受診してください。

65歳以上の方のかかりつけ医は、年に1度の胸部レントゲン検査をお願いします。

手足口病に注意

小児科定点から患者報告数が過去11年間の同時期に比べて最も多い状況になっています。手洗いの励行等、感染症予防に注意してください。

(手足口病とは、口の中や手足などに水泡性の発疹が出る、ウイルスの感染によって起こる感染症です。子供を中心に主に夏期に流行します。)

《在宅ケアにおける感染症対策のポイント》

～感染症の発症予防対策と早期発見のために～

日頃の感染症予防対策が大切です。

- 手洗い、うがい、手指消毒
- 利用者の健康管理(全身状態の観察、栄養バランス、清潔ケア)
- 環境整備
- 必要時、手袋、マスク、エプロンの使用
- サービス提供者の健康管理

つつが虫病に注意!!

春から初夏にかけてつつが虫病が、多発する時期となります。農作業、山菜採り等の際には、できるだけ肌の露出をさけてください。県南地域は、つつが虫病の多発地域となっていますので、御注意ください。

県南保健福祉事務所ホームページ

www.pref.fukushima.jp/kennanhofuku

「県南地域感染症情報」に関する御意見、御質問等につきましてはFAX及びメールにて返信くださるようお願いいたします。

県南保健所生活衛生部医療薬事課 FAX0248-23-1252

メールアドレス kansen_kennan@pref.fukushima.jp

★福島県感染症動向調査週報県南地域情報★

(全県の情報及び週報は、「福島県感染症情報」を検索してください。)

(26週6月28日～7月4日)	流行性耳下腺炎、手足口病の流行、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎の小流行が見られます。
(27週7月5日～7月11日)	手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎の流行、咽頭結膜熱の小流行が見られます。
(28週7月12日～7月18日)	ヘルパンギーナの流行、手足口病、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、咽頭結膜熱の小流行が見られます。
(29週7月19日～7月25日)	ヘルパンギーナの流行、手足口病、流行性耳下腺炎、咽頭結膜熱、水痘の小流行が見られます。



○ヘルパンギーナとは

- ・発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。大多数はエンテロウイルス属、流行性ものは特にA群コクサッキーウイルスの感染によるものです。
- ・感染経路は、経口感染、飛沫感染が考えられます。

腸管出血性大腸菌(O157等)感染症に注意

腸管出血性大腸菌(O157等)感染症は、感染経路として、生レバーや加熱の不十分な肉等があったと報告されています。気温が高い時期は、菌が増えるのに適しており、これに人の体力の低下や食品などの不衛生な取扱いなどの条件が重なることにより発生しやすくなると考えられます。

《腸管出血性大腸菌(O157等)はなぜこわい?》

- ★感染力が強く、わずかな菌で発症します。
 (通常の食中毒は10万個から一千万個単位の菌数がなければ発病しませんが、O157等の場合は100個くらいの菌数で発病します。)
- ★毒力の強い「ベロ毒素」を出します。
 (O157等は、菌が大腸内で増殖するときに毒力の強いベロ毒素を出します。このベロ毒素が、溶血性尿毒症症候群や脳症などを引き起こします。)

《感染を予防するための注意!!》

- ★O157等は75℃以上の熱に一分以上さらすと死滅すると言われています。生ものはなるべく避けて加熱することが大事なポイントです。
- ★調理器具(まな板、包丁、布巾)は、その都度、洗剤で洗い、必要に応じて熱湯をかけて消毒しましょう。漂白剤には塩素が含まれており、殺菌力があるので有効です。
- ★井戸水や受水槽の衛生管理に注意しましょう。

新型インフルエンザ情報!!

沖縄県、福井県で発生がみられています。
 日頃より感染拡大防止のため手洗いの励行をお願いします。

県南保健福祉事務所ホームページ
www.pref.fukushima.jp/kennanhofuku